東日本大震災記録誌の刊行にあたって

本市は2003年(平成15年)7月26日に1日で震度6の地震が3回発生した「宮城県北部連続地震」での被災を教訓に、近い将来に発生すると予想されていた「宮城県沖地震」に備えて「災害に強いまちづくり」を推進していたところでした。

しかし、2011年(平成23年)3月11日に発生した「東日本大震災(地震名:東北地方太平洋沖地震)」はその想定を大きく上回る規模でした。本市においては1,109人(2014年1月現在)の尊い人命が失われ、家屋被害も半壊以上が11,000棟を超えました。また、浸水域が市街地の約65%に達するなど、農地や漁港をはじめとする産業施設や社会基盤施設にも壊滅的な被害が生じました。

あれから今月で3年が経ちました。長い歴史を振り返れば、こうした大津波や大地震は慶長三陸地震(1611年)・明治三陸地震(1896年)など、過去に何度も発生していることから「歴史は繰り返す」ということを改めて痛感します。

本市では、発災直後より人命救助と行方不明者捜索を最優先に、各避難所設置、医療・衛生対策、衣類やライフラインの確保、通常年ベースの100倍以上に相当する膨大な量の災害廃棄物処理、ヘドロ除去、被災家屋解体、義援金支給、仮設住宅供給、防災集団移転先全7地区の住宅用地造成事業などに取り組んで参りました。

この間には、全国自治体からの派遣職員の皆さまをはじめとして、県内市町村、民間事業者、関係機関、関係団体の皆さま、そしてボランティアや地域自治会の皆さんなど、国内外から数多くの人的支援と物資支援を頂きました。改めて深く感謝申し上げます。

現在、復旧および復興事業は、まだまだ道半ばですが、発災から今日までの記録を後世に遺(のこ)し、この大震災の記憶を風化させないことを目的として本誌を作成しました。これが後世への新たな教訓となり、今後の国内外で発生する大災害に対する防災・減災、復旧および復興の参考になれば幸いと存じます。

本市におきましても、この教訓を活かし、被災市民皆さまの生活再建や産業および教育環境の再生、雇用の確保など「あの日を忘れずともに未来へ ～東松島一心～」をスローガンに、一日も早い復興と「災害に強いまちづくり」を進めて参ります。

今後とも、皆さんからのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、発刊の挨拶といたします。

2014年(平成26年)3月

東松島市長　阿部 秀保